



## 令和2年度の学校行事から

校長 高橋 大造

昨年度の卒業式から新型コロナウイルス感染症の影響を受け、始業式・入学式と令和2年度の大きな行事が立て続けに実施方法の変更がなされたり、中止になったりすることが続いています。その中で、子供たちに少しでも思い出に残ることができないかと教職員・保護者・地域の方々が考えを巡らせています。

運動会は3蜜を避けるために時間を決めて参観してもらいました。他の学年を見ることが出来ませんでしたが、今までと異なり、移動することなくゆっくりと自分の子供を見ることができたとの感想をいただきました。子供たちは、休み明けにビデオ撮影した演技を鑑賞しました。初めての対応であり、次年度に参考となる運動会でした。

5年生、6年生の移動教室が中止になったことから、釣り体験と宿泊体験を考えました。これは、独立行政法人 国立青少年教育振興機構が行った調査(平成22年、24年実施)により、子供の頃(中学生まで)の体験が豊富な人ほど、高校生になってからの共生感や意欲・関心、人間関係能力、職業意識、規範意識などの現在の資質・能力が高い傾向があるというものです。また、日本人が特に低いと言われている自尊心、自己肯定感の醸成についても、体験によって自信が付き、やればできるという自己肯定感が身につくことも報告されています。特に、自然体験活動が有効であると言われています。

そこで、5年生のハケ岳移動教室は、11月17日(火)に秋川国際マス釣り場に行き、なかなか体験のできない“魚を釣る”ということを考えました。自分の釣ったマスを塩焼きにして何匹も食べた子供がたくさんいました。これまで釣りを経験した子供は半数ほどでしたが、たくさん釣れた経験のある子供は数名でした。今回の経験がこれからの生活に生かされるものであると信じています。

6年生は11月27日(金)、28日(土)の2日間、学校を使って防災キャンプを実施します。はじめに心臓マッサージとAEDの使い方を日野消防署の方と地元消防団の方、日野市防災安全課の方のお力をお借りして6年生全員が体験します。夕食は子供たちが校庭で火を起こして薪でカレーを作って食べます。校庭とはいえ自然を相手に活動をします。その後、学級会で話し合い、学年で決めた夜のレクリエーションを行い、自分たちで用意した寝具を使って宿泊を体験します。実際に災害が起きた時には、中学生や高校生が避難所で活躍することが今までの避難所運営の中から分かっています。東光寺小学区ではここで体験した子供たちがきっと地域の役に立ってくれることと信じています。

新型コロナウイルス感染症の拡大が心配される中であって、「何もできない」「どうしたらよいか分からない」という言葉をよく耳にしますが、これを新たな体験への足掛かりと捉え教職員と保護者、地域の方々のお力をお借りして今後も学校運営を進めてまいりたいと思います。

これからもご支援ご協力のほどよろしくお願いいたします。



## 》》》 各部からの活動報告 《《《

### 【環境部】

今年は芝生もコロナ禍により、思うように手が掛けられず、不安なスタートとなりました。運動会もソーシャルディスタンスを保つために7コースを確保しなければならず、皆さんには例年以上のご負担をお掛けしてしまいました。しかし、旧年度役員さん始め、たくさんのボランティアさんや先生方のお陰で、運動会当日はきれいなグラウンドになり、オーバーシードも無事終了しました。お手伝いしてくださった皆さま、本当に本当にありがとうございました。また、来年の芝生も子供たちの笑顔のために、どうぞよろしくお願いいたします。(佐藤 彰子)

## 【 学習部 】

平成30、令和元、2年度日野市教育委員会研究奨励校研究発表会が、10月13日(火)に東光寺小学校でありました。研究主題は「自他を大切にし、よりよい学級・学校を目指す児童の育成」です。

当日は公開授業、研究発表、指導講評、講演の順に行われました。授業は低、中、高学年それぞれ工夫されていて、自己有用感を高める学習プログラムであると思いました。体育館に移動しての研究発表、プロジェクターで見せていただいた「東光寺小学校の軌跡」もたいへん分かりやすく、よくできていました。感動しました。

杉田 洋先生の講演「今こそ求められる特別活動の教育力」も内容が充実し、たいへん興味深く拝聴いたしました。

コロナ禍で、いろいろな領域で変化が起きている中で進められた研究発表会には、いろいろご苦労があったことと思います。教職員は共通の指導を行えるよう、研究の実践を重ねるごとに改訂した特別活動ハンドブックを基に指導に当たられたようです。

盛り多き研究発表会を参観することができました。

(石川 ちづ子)

## 【 安全・安心部 】

4月から、PTA会長として学校運営協議会へ参加させていただくこととなりました林です。よろしくお願いたします。通学路安全運転呼び掛け隊の方々から「子供たちが下校時に元気に挨拶してくれてうれしいね。」との声をいただいています。コロナ禍で様々な制限がある中でも、子供たちは頑張っているなと思いました。

先日、交通危険箇所点検に参加しました。日野警察署の方にもご参加いただき、9名で5か所の交差点を確認しました。ミラーの見え方、走行速度表示、横断歩道の青表示時間など、1か所ずつ、どのような場所が子供にとって危険なのか、対処方法はあるのかを現場を見ながら確認しました。参加するのは初めてでしたが、気にして見ているつもりでも気付かないことがたくさんあり、とても勉強になりました。対応必要箇所については、日野警察署の方々のご協力で改善され、子供たちが安全に過ごすことができそうです。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

学校と地域と保護者が力を合わせて子供たちを見守っていることを実感した1日でした。私自身の母校でもある東光寺小学校の活動を、より一層サポートできるように頑張りたいと思います。

(林 まゆ子)

## 東光寺小学校の研究発表会に参加して

さかえまち児童館館長 下川 和子

東光寺小学校の先生方は、この研究を通して「子供たち一人一人を大切にしている。」「集団の中で子供の良さを輝かせることができる教師をめざしている。」「教師主導ではなく、子供たちの自主性や主体性を育てようとしている。」「自分の考えを伝えたり、友達が言っていることを聞いたりと、課題を解決しようとする子供を育てようとしている。」ということが分かりました。

授業を参観して、1年生のクラスでも司会や書記を子供たちが担い、進行していました。「1年生には難しすぎる。」と思いがちですが、どの学年でもスムーズに子供たちが進められるたくさんの工夫がなされていました。そのような環境を作り、子供たちを信じて任せることが大事なんだと感じました。どの教室でも、熱心に意見を出し合う子供たちの声が響いていました。

研究発表の日から数日後、「今日運動会やったんだ。」と嬉しそうに学校の様子を伝える子がいました。学級活動で話し合ったことを実現した「自分たちのクラスの運動会」だったようで、充実感に満ちあふれていました。

コロナ禍で、できないできないと嘆くのではなく、できることを見つけて自分たちの力で実現していく子供たちの力強さを感じました。

